

7月28日
水曜日

創造広場

今夜7時
「希望の家」で
きぼうのいえ

今年の夏祭りに向けて 今日から
みんなと大きな絵をつつて
いきます。釜の街中
公園でもかきまわ
りましょう!

釜ヶ崎大壁面

今日の日



7月21日川柳 報告

仕事ない
うなをばらさん
夏祭り

仕事か
急いで乗れば
救急車

盆がえり
受話器とったが
数番を忘れ

千大
千小
のそ
うか

二日
酔相
手な
くか

にぎ
場か
も参
加

夏祭り

南浦本線
藤原屋
小学校
藤原屋
お祭り
お祭り
お祭り



体裁振ってはいられない

創造広場詩の部

月に一度、オ一水曜日は詩の日といふことに決まっています。詩をつくることになつてゐる。

いまは、労務者渡世編集委員会。の日野善太郎さんに進行役をお願いしてゐる。

日野さんは釜に住んだことはなりが、土方稼業は長く、出屋敷を中心に飯場を渡り歩いた人で、その上、文学、詩についてもサークル活動などの経験が豊富である。釜の創造広場の進行係としては、最適だろう。進行係は別として、他の参加者については、最適も不適格もないのはもちろんのことであり、門を広く開けてゐるつもりなのだ。中々に参加者は増えない。呼びかけのビラに載せる、詩が悪いか、よすぎ

るせい。

常連は、飯場専門で万年文学青年のTさん、飯場専門から現金に転向を考へてゐる現役文学青年のSさん、絵とか、版画、いわゆる美術が専門で文学はいまひとつ、土方経歴一日のTさんへただし、創造広場の主宰者であります、熱意充分、もつとも力が入つてゐるが、ちよつとすれちがつてしまふTさん、日米またにかけて大学を卒業し、どういうわけか釜に注目してゐるHさん、ノ一ガキの一番うるさいK、そして俳句、短歌が専門のYさん。

オ一水曜日、午後七時、喜望の家、左のドアから中へ入り、手前から二番目のドアへたいてい開いてゐる。左のどくと、Tさん、Tさんがゐる。

くばらく雑談してゐるうちに、いつも見る顔がそろつ。それでは、というこゝろになつて、詩についての話を少くする。

日野さんが、ある人に創造広場の話をし

みんなの立て話を作る、と言ったら、えらく器用なんですねえ、私には詩を即興でつくることなんかできないですかね、との反応があったという。

その話を受けて、即興詩々について話をした。

日野さんも一つの詩を完成させるのに時間がかかるほうで、二、三年ぬかしてある詩もあるそうだ。創造広場で詩をこしらえても、それを完成させたものとして見るのはなく、あとで手を入れ、見直すくせをつけた方がいいたろう、という考え。

常日頃、頭にあることが、創造広場での話、あるいは決められたテーマに触発されて、詩の形でまとめられ、表現される。その作業を定められた短い時間の中でおこなう。そういう形でつくられた詩は、内容、表現に二なれでいないものができる。現実にもそうかも知れない。次ページ以下の詩を専門詩家が見たらそう言うかも知れない。

だが、体裁振っていられるもんか。

詩作態度のや、方法のや、はたまた心のうちで成熟しきれないうちは形に現れせないだのと、お上品なことは、個々それぞれに考えた人は考え、研究すればいいのであって、創造広場にとってはサシミのツマだ。

創造広場の目標は、釜の仲間のそれぞれが、自分の生活体験なり、意見なりを、他人に伝えられる形にしようと努力することのできる場をうみだすことだ。

できた作品のよしあしが問題なのでなく、できた作品の合評を通じて、お互いの考えや感じ方を確かめ合い、その作品をどうせ今回のパンフのような形で、釜の多くの仲間にも伝える。そのことによって、それぞれが生活や考えなりを見直すきっかけになればよい。持続と数多くの我らの声の集積。詩としての質などクソくらえ、まづ生の声をあげていこう。あなたの参加を待つ。

あいつの記憶

日野善太郎

住宅街の中の

基礎コンクリート打ち

「早くバラスもってこい」

怒鳴ったら

あいつ

足場板の上であわてせがって

一輪車ごとモロに落ちた

みぢなんかすりおいて

「バカ、赤いスカートなんかに

みとれるからだ……」

もう二十年にもなるか

水の正

そのとき十九だった。

無題

武内司郎

ひとつの公園は家族づれでいっぱい

それぞれのべんとりをかこんで
にぎやかにすわっている。

もうひとつの公園は労働者でいっぱい

一つのなやをかこんで

だまっすわっている。

一九八二年五月五日 午後一時

釜ヶ崎の春に仕事にアブレて

作れる歌・併せて短歌二首

馬之骨

四月は残酷な月だ

これは毎年のことだが今年は特にひどい

いつぞ三月で公共事業が終わり

四月の中頃に仕事が減るのだ

だが今年四月に入ったとたん

全然なくなった

四月は残酷な月だ

岩^い敷^はる垂^た水^るの上に早^{はや}わらびは萌^もえ
造成^{せいせい}した宅^{たく}地^ちの周^{しゅう}田^{でん}に

タンポポすみれは咲^さき乱^{らん}れても

春^{はる}のかすみは深く先^まを見ることは出来^こない

反^{へん}歌^か

ひさかたの光^{ひかり}のどけき春^{はる}の日に

静^{しず}二^にころなく 仕^し事^じを探^{たづ}ね

わひぬれば身^みを浮^う草^{くさ}の根^ねも絶^たえて

誘^いう手^て配^{はい}師^しがあれは行^いかんと思^{おも}う

無^む題^{だい}

吉^{きち}田^た

仕^し事^じがなく

もあ三十^{さんじゅう}日^{にち}も

アオカ^あン^んだよ

い^いつもな^なが^がら

ゴ^ごミ^み箱^{はこ}をあ^あさ^さつて

は^はい^いず^ずり^りま^まわ^わつて

生^いき^きて^てい^いる

もあつかれた

この場^ば所^{じょ}で死^しぬの^のを

待^{まち}つ^つだ^だけ^けだ

俺^{おれ}の生^いき^きる^る道^{みち}は^はな^ない

い^いつもな^なが^がら

生^い活^{かつ}の知^ち恵^えも^もだ^ださ^さぬ^ぬま^まま

死^しぬの^のか

友^{とも}達^{たち}が^がい^いる^るの^のに

い^いま^ま少^すし

仕^し事^じが^が出^でる^るの^のを

待^{まち}と^とう^うで

あ^あとは^は考^くえ^えよ

仕^し事^じ仲^{ちゆう}間^{かん}のセ^せン^んタ^たーを^をう^うで

ス^す保^ほ知^ち明^{めい}

い^いよ^よう、ど^どな^ない^いや

い^いど^どな^ない^いも、こ^こな^ない^いも、こ^この^のこ^この

よ^よう^う顔^{かほ}合^あわ^わく^くて^てる^るや^やな^ない^いか

い^いお^お互^{たがひ}い、な^なん^んぎ^ぎや^やな

声かけあつて話をかわすも
まづ 三、四日、ここへ
アブレを十日も続けてもらひきれば
よ、と声をかけるが精一杯
他に
何がある

無題

相馬雅美

喰うものがなくなると
ただでさえあぶない心か
はげしくせぶれてくる
かろうじてつなげていた関係も
あつさりきれた
もともとひとりだから
この世のつながりは
金で買う女だけではないと思つた
たかる相手に
頭の弱いのをつなげておくのも
いいかもしれない

川つも先を見越す目を養ひ
けして他人に喰われまい

無題

武居

西成の町に
つめたいかぜ
ふく

無題

オオサコ

仕事がないのでアオカンする人が多く
山谷では王ガキ(シノギヤ)のグループが
天王寺駅ヤナンの駅に一〇人、二〇人の
グループで移動しているのでもつぱり
せりかえそう。
屋間は三角公園、西成署の前センター前
にいらるので追放しよ
モガキ、シノギヤ追放のステッカーをはら
う。

ひかり者がぞく出してります。

子供の日

橋本

私は先月から教師をしている
家でゆっくりと一日を過ごした

武居さんは日雇いの労働者である

よい天気だが

くそおもしろくなかった、そうだ

こいのぼりの泳いでいない益ヶ崎で

二百円のモーニング、コーヒーをすまりながら

仕事にアブれた人びとを見て

詩をつくった、といひ

近所のこいのぼりをながめながら

ただ、ゆっくりにしていた

私は教師である

七夕まつりの日

武ヤン

あいらん地区の子供たち

← 天気がわるいのでかわいそう

←

かなしきは

馬之骨

あいらん地区の子供らよ

七夕の日に

← 雨ど降りぬる

←

かなしきは

野次郎

あいらん地区の大人らよ

よその子らが

← ゆうぎする見る

←

七夕の

どじろう

← 「仕事のぬがいさえ

雨にながされる

←

七夕に思い残して祖母の顔

吉田

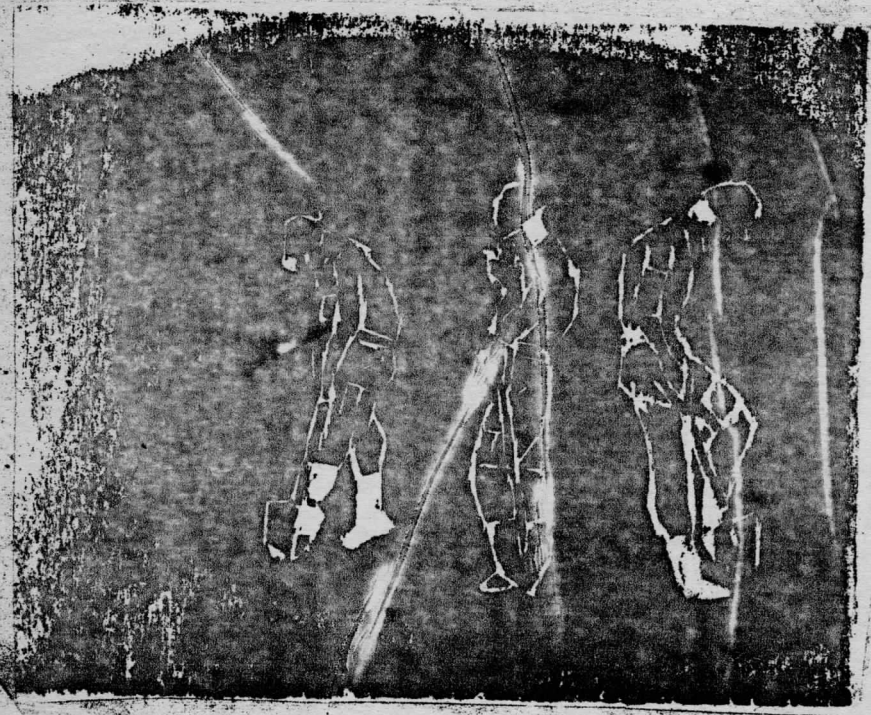
土掘るあいまに木を掘った

創造広場版画の部

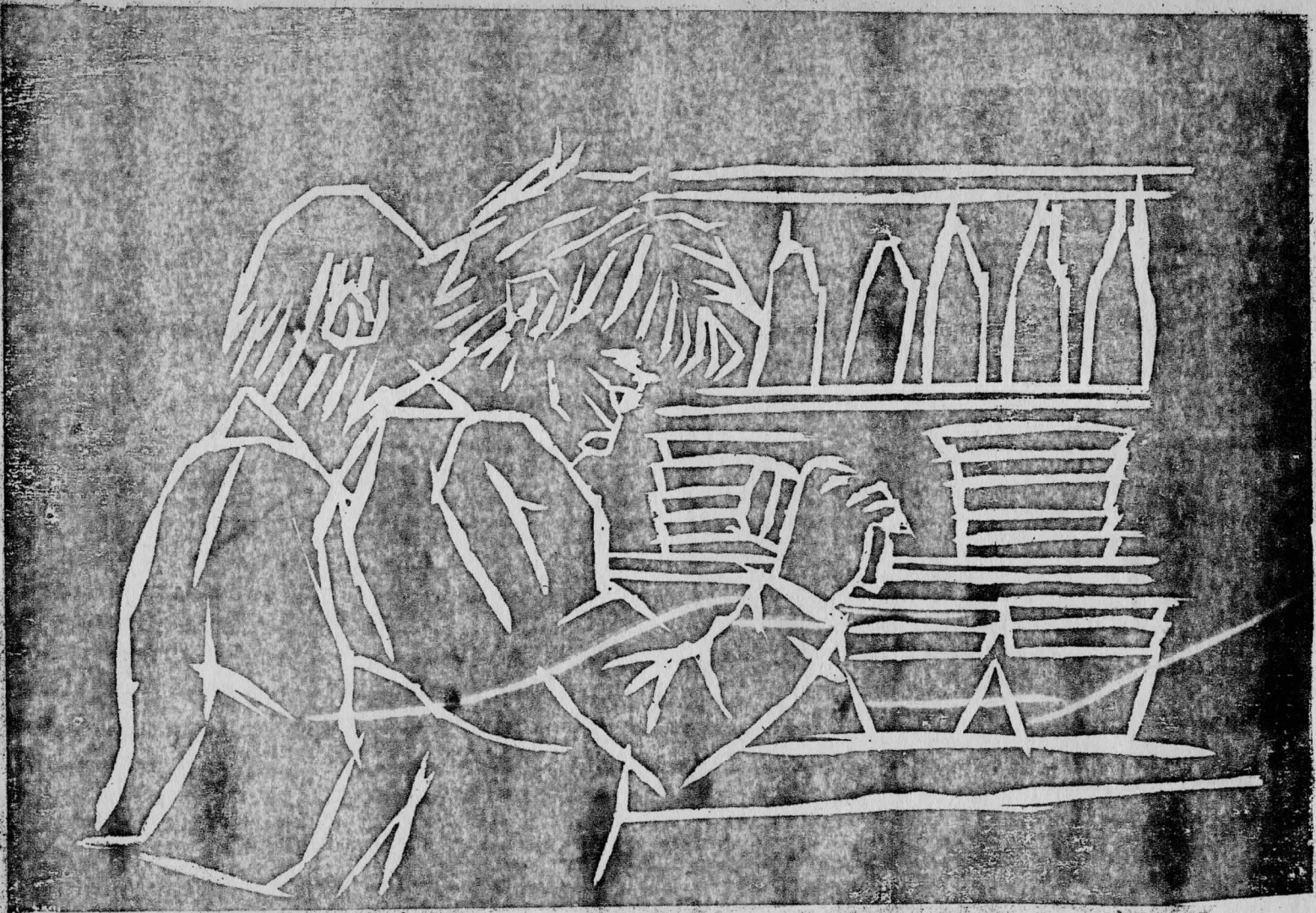
ベニヤ板と彫刻刀だけで、だれでも、絵のへたな人でも、いや、へたな人ほど、その人の味を表現できる版画。

創造広場に参加して版画を掘っていった仲間が残していった版画板41枚。いい作品がたくさんありますが、いくつか紹介します。

ピラにのせた版画の作品 (P.25, 28, 35, 38, 48, 50, 55, 58, 68) もいっしょに見てください。



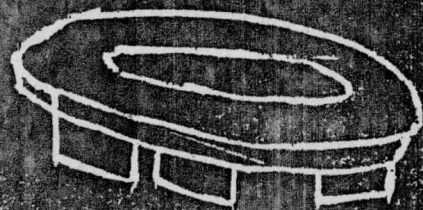
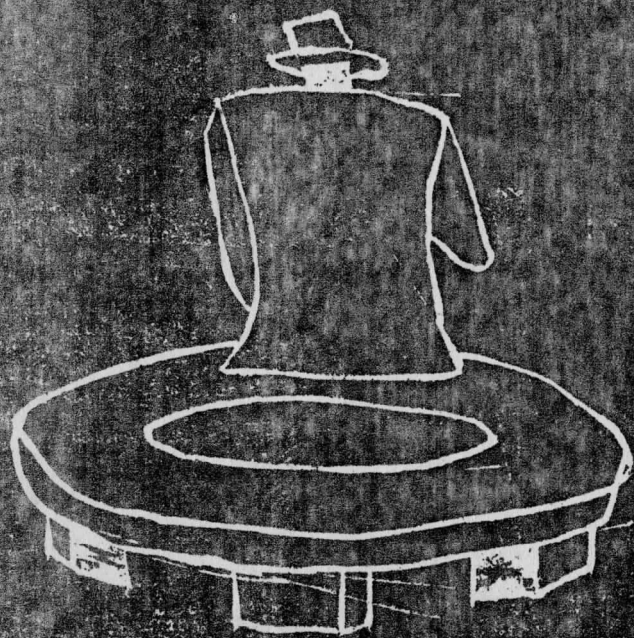
相馬



- / 00 -

相馬

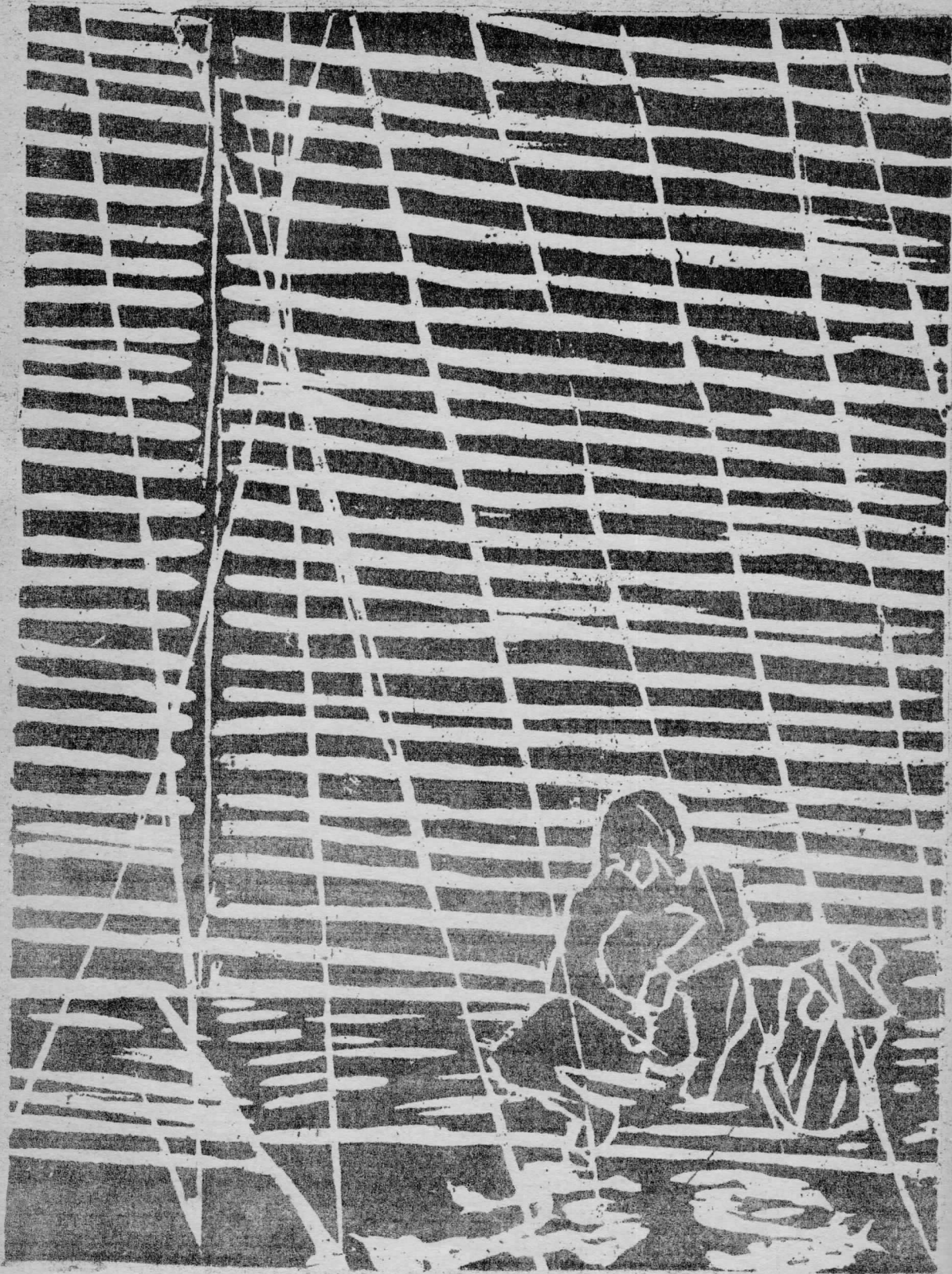
三角公田



-101-

馬之骨





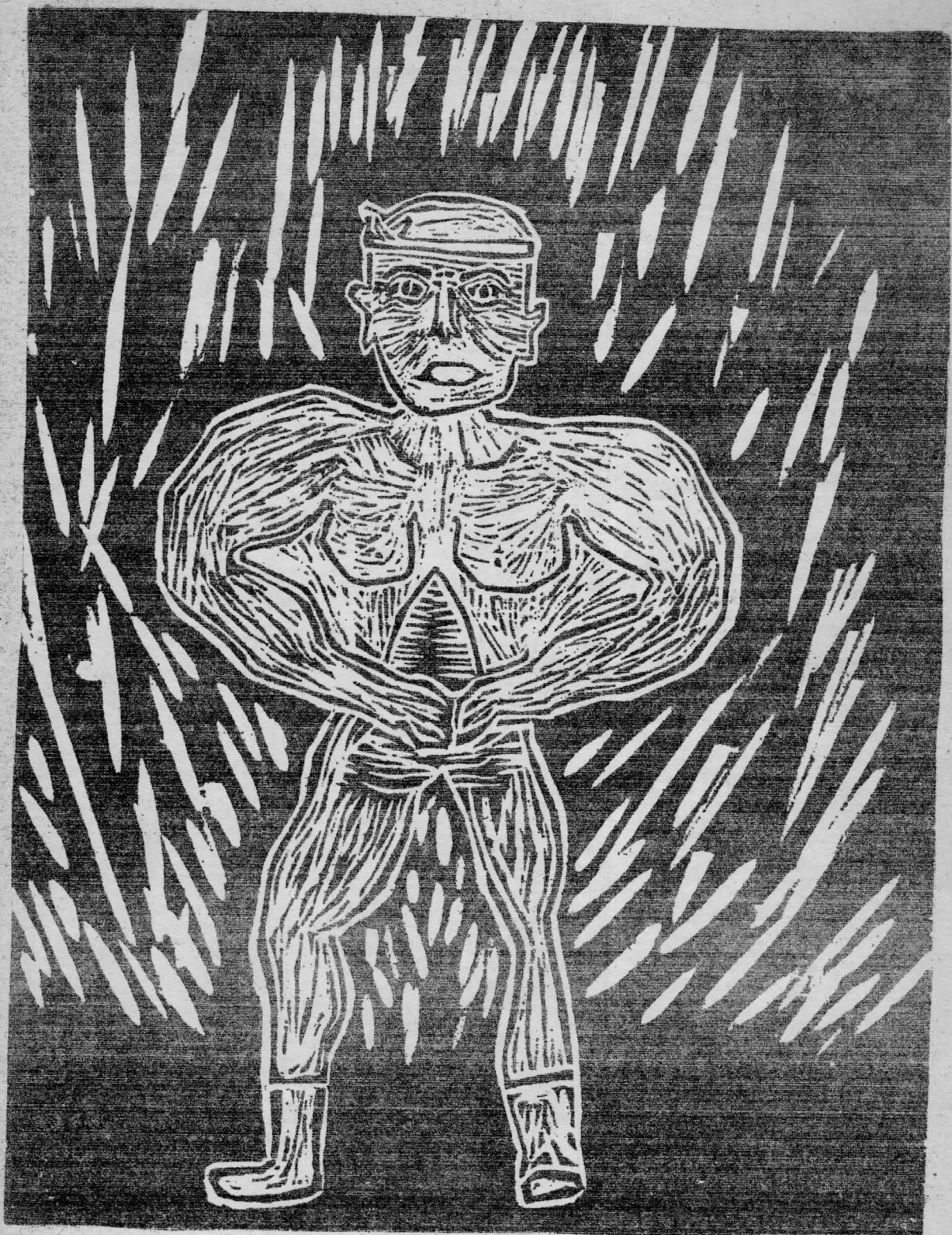
橋本

任事村
釜の町
此
此

武



武内



又保

おもくろくせがて哀しみ、十七字

創造広場川柳の部

川柳とはどんなものか。創造広場で川柳をとりあげようと提案したものの、自分で作ったことはなかったし、参考にする過去の作品もあまり読んだこともなかった。

それで、最初のころは、川柳とはどんなものだと思うか、を話し合うことからはじめた。

- 。五、七、五で成り立っている
- 。季語がなくともよい
- 。おもくろくのものだと思つ
- 。気持ちがいさしいと読んで感じる
- 。庶民的な感じがする
- 。そう考えなくてもできそうな気がする
- 。江戸時代、偏端くた時代に風刺として出て来た。
- 。俳句も川柳も同じようなもの

こにもかくにも、十七字であればなんでもよい、とりあえず作ってみようと、毎回前半は題を決めて、後半は題を決めずにやっている。その成果についてはビラの報告をもらひたきたり。

ここでは優秀作品を紹介する。

メシ・トイレ この世のにおいしみてなお

センターの題で、通香さんの作品。解説不能だが、なんとなくセンターらしさが感じられる。

冬の風 夕餉のにおいさけて行き

冬の題で太郎兵衛さんの作品。飯場へ仕事をかえて帰るとき、風にのって夕餉の仕度をする包丁の音や蒸物のにおいが伝わってくる。だが、それら家庭的なものは、土

方である私をさけるようにして登んで行く。

盆過ぎてマンコウを逆さ吊りする冬になり

同じく冬の題で、翔ばん男さんの作品。私

は知らなかったのだが、鯨鯨というさかな

は冬場に店頭に逆さ吊りして売られている

ものらしい。もちろん、この句はマンコウ

リアンコで、冬になり仕事かとぎれて難儀

する我々の状態をも詠みこんでいる。

手配師の口のうまさも鬼心

仕事の題でムカイさんの作品。説明不用。

古株は一ツ一ツに講釈あり

同じく仕事の題で野次郎の作品。土方も

十年、二十年のテランになると、堀り方

一ツ、片付け一ツ、それ以外の仕事に、埃

取りやら進め方に解説がつく。それは本人にとつては詠りであり、知らぬ者には勉強になる。(とまにはウンザリだが)

沈まなれお日様めがけて土を投げ

同じく仕事の題で、翔ばん男さんの作品。

まるで絵のように、あの現場、あの時、が

思い浮んでくる。

次に下句付、上句付で遊んだ時の作品を。

クソオれば便器に見ゆる黄金色 野次郎

それにつけても金の欲しさよ

夢喰いを運命とさとり空見れど 編者

それにつけても金の欲しさよ

釜にいて 自立更生 相互扶助 野次郎

釜にいて痛快なのが世では鬼 酒香

釜にいて外はみえるが内みえぬ ドジョウ

釜にいて仕事がないと口きかぬ タケヤン

朝四時半こまぜの便所ざあざあと タケヤン

さてもにぎやかなことにぎやかなこと

遊びがこういて、笑える話で。

シノギヤにズボンががれてケをそら水 野次郎

二日酔い 昔リ旋律 へ短調 酒吞

仕事ありやっとはいつたドヤ熱く

明日はもどろかガード下 ドジロウ

仕事かと急いで乗れば救急車 野次郎

さて、再びまじめに、自由題での優秀作。

酒うけて墨きかうぜわびしさあつちめせつごう

人恋しさあつちめせつごうに酒を飲みに入つたが、いたって！

アンコーも不況の波ではおぼれてるドジロウ

アレコレあつちめせつごうとあつちめせつごう言あつちめせつごうつてあきたかつた困の妻 野次郎

さらば父母じやまなモラルけちらして 酒吞

春の夜の夢ばかりなる仕事賃 鞠はん男

萬代の虚しき男児まろずここに来る 鞠はん男

兩三日アブレ三日の日曜日 野次郎

天王寺公園

春うららかなおっさんがねている タケヤン

胸に住む蝶舞あつちめせつごうりあがりアンコ死す

五、七、五の十七字とはいいなから、創

造広場ではかなりな破格、十七字にとらわ

れないものが多く見られる。そして、強り

て形どなりに直せりとも努力してりなり。

（直せる人間がいない、というこもある、

たれか一人ぐらいは、川柳の専門家のよう
な人が欲しいものだ。）
今のところ、とっつきやすさと作りやす
さにしのみついて、しやにあに作っている。
ちや中ゲルミがちなので、アナタ、参加し
て活を入れ下さいませんか。（久保）

釜ヶ崎を

絵でうめくすものだ...

創造広場絵の部

肉体はわしらの絵筆

わしらのパレットは

一 路よなり

一 公園なり

一 仕事なり



えのぐをつがった作品は、こゝにはのせられ
ませんが、出版創造広場でとんとん
やっていきたいと思ひます。

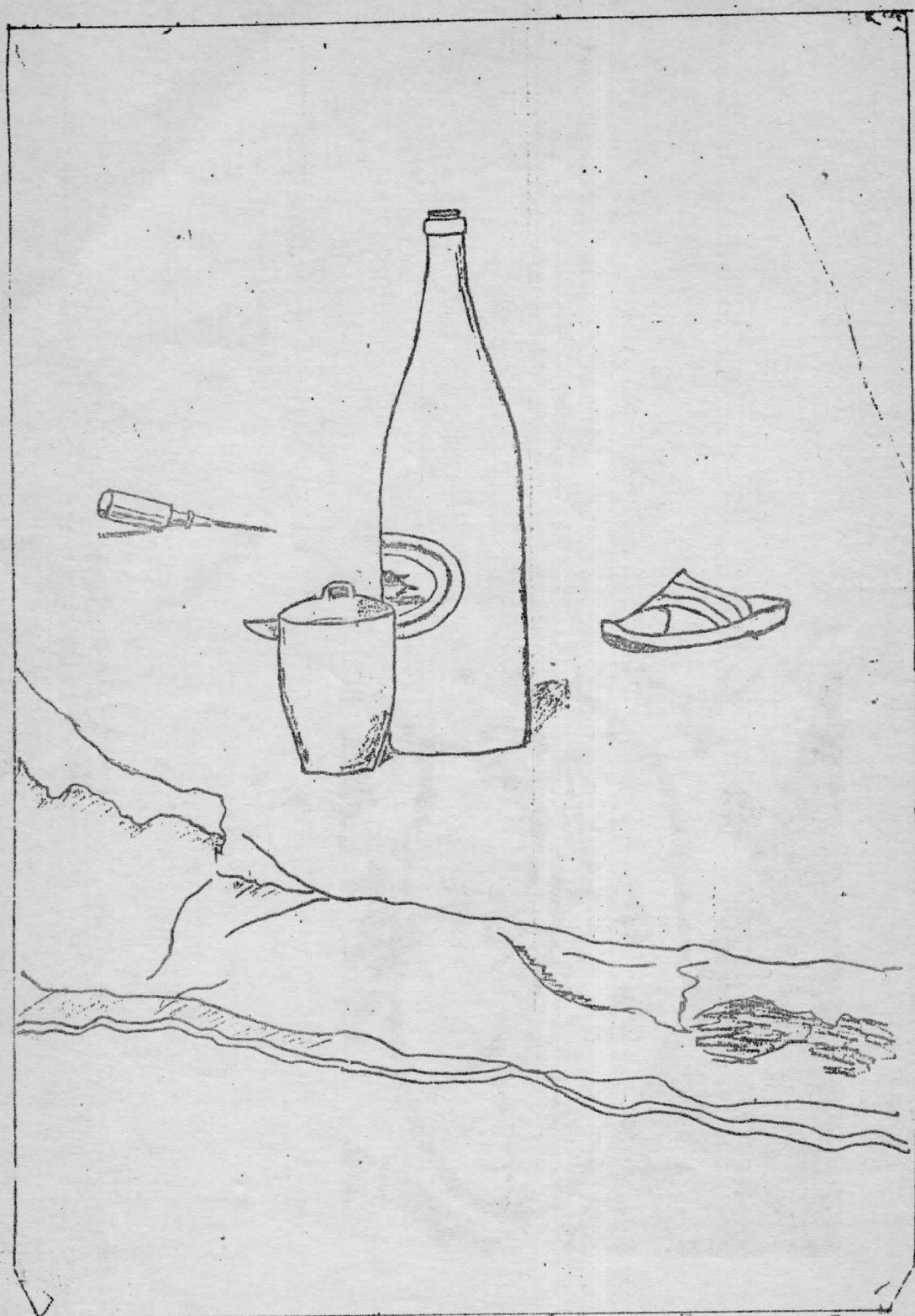
P8, P11, P.9, P54, P61, P92 などの絵もみてください。



又保



相馬



三角公園の舞台の上の静物

馬の骨

去年の夏祭りの創造広場

創造広場の落書きコーナーと似顔絵コーナーは予想以上にヒートした。落書きコーナーはまさに創造広場である。

地べたに横造紙を十二枚合せて、落書き広場をつくりそこに共同で書いてもらう。これには、思っていた以上の反応があった。不思議なもので、白いときはなかなか書かないが、少し汚れて来るとわれもわれもと書き出す。

意外に「酒」という字を書き人が多かった。また自分で書かないで、周ちやんに「酒ダメ。ギャンブルダメ」と書かせる人もいた。「心と金」で遊べが書く。「金ほしいなア」ともう一人が言う。すると「心と金」と書いた人はおもむろに「心」に二重丸をつける。

あちこちで書きはじめる。すると中年の労働者が筆をとる。「人生三角公園から出直した。どんな思いでこの一句を書いたのだろうか。その横に小さく「アンコ・ルンペンになってもポリ公になるな」母の遺言。痛烈な皮肉である。附近には、私報警官や機動隊が「ウロウロしている。

紙をかえる前にも面白い落書きがあった。誰かが大きく「金」と書く。すると「ソノメシ代上げろ(注・大阪府や市が日曜労働者に支給する夏の一時金。今年は一円四角)と声をとぶ。「いくら」「一万五千元の田、いや一万五千円」。そんな声で紙面はたちまちまるまる。「汗代六五〇円」し書き入っている。「汗代六五は安いよ」「九五〇〇円」と声かあがる。周ちやんが「九五〇〇円」と書くと紙面はたちまち真黒になるが、そこそこ美味のある広場が出来る。

一枚一枚、みんなは期待を込めて共同で落書きをしていく。大変な人ばかりである。横で小さな声で「やはり仕事かほしい」とつぶやく。祭りの最中でも生活の不安は少しも解消されていない。厳しい祭りである。

☞ 指山「人生三角公園から出たおじだ 小柳伸頭」より



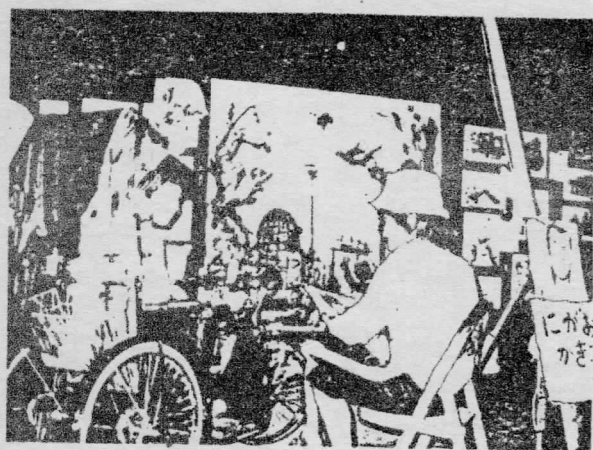
「俺は字は駄目だが、あんたならうまいんだから書けよ」とけしかける。か、当人は、なかなか重い腰をあげない。

「滅」という字も多くかかれた文字の一つである。「光と暗」と書いて枠でかこんだりもする。「もつと、エロチックな落書きもせや」と野次も飛ぶ。

落書きが一段落すると、人だかりはなくなり、一人、また一人来ては筆をとる。「北海道、北見、訓路」と地名を書く人。「西成夏祭り」。暗くてよく読みとれないが、白い広場はたちまち黒い広場に変わる。読んでみると落書き広場には、釜ヶ崎の人生がある。その黒い広場で小さな子どもが、グチャグチャといたずら書きをしていたら、一人の労働者が淋しそうにつぶやいた。「みんな一句、一句思いを込めて書いたんだから、子どものいたずら書きで消すのはなアー」。

武内さんのアイテアの似顔絵コーナーも大繁盛であった。かれは、六時すぎから九時頃まで描きづめである。沢山の労働者にかこまれながらモデルの労働者は、神妙な顔をしたりテレたりしていた。とにかく、完成するまで自分かどう描かれているか知らない。周囲の労働者が、「うまいなアア」「よく似てる」と感心すると当の本人は、「うまいこと言っで」とてれ笑いをする。

田舎の子どもに送るからと言って座る労働者。ただ一言「描いてくれ」と坐る労働者。みんな、それぞれ思うことがあって、一枚一枚〇〇円也の似顔絵描きを申し込む。



「よう似ているからおつさん五〇〇円出しな」と冷やかされた病院から一時外出して来た労働者が、「早く描いてくれ。八時までに帰らんとかかん」と言うと、「これ病室にはつときや」とはげまされる。とくに面白かったのは、自称ロッキードの児玉に似ているという労働者であった。かれは、生れて始めてアロハシャツを着たので、絵にも是非その柄を入れてくれという。よく見ると児玉に似ている。しかし、笑うといい顔だ。誰かが「おつさん、いい顔しているな」と言うと、顔をくしゃくしゃにしていた。自称児玉さんは、武内さんが断るのに無理矢理千円を渡した。とっておいて、とてもうれしかったようだ。

創造広場感想文

毎週水曜日は創造広場
もう30回なつています。
詩や版画や美術教室や
川柳をつくうています。
はじめの内はたくさん
人がきていました。が、仕
事がぜんぜんなく、めい
めいで生活におわれて
いるせいでしよう。西成

はきびしくなりのこのでの生
活はやりにくくなつた。だろ
う。創造広場30回のみかさ
ねのよく今までががんばつ
てきたとおもいます。これ
からナンバーが一人一人
がこせいやちえやせいの
うちだしあつて、創造広場
をもつとひるげましよう。

武ちゃん

創造の主題

一 日本人論の周辺

私が取りこんでいる創造の主題のひとつに民族問題がある。その中でもニッポン・ニッポン人(民族)が日本人である私には重要である。これの諸問題について私の考えを少し整理してみたい。

一 人種について

日本人を構成する人種は朝鮮から渡来したものが一番多い。もちろん天皇家の先祖等もその中に含む。

この朝鮮半島から渡来した人種以外は少数の部族であり、ニッポンの古代国家成立以後は、権力機構・経済活動の面でも疎外され続けてきた。これら少数部族で名前が残っているのはアイヌを筆頭に、ツチグモ、オロッコ、ギリヤーク等々数々ある。

今日の日本文化をみると、古いニッポン人には南方の東南アジアから渡来した人種が多かったようだ。例えば私達に親しい「エベッサン」と呼ばれる「エビス神」は南方から渡来して日本人になつて、海岸で主に魚を獲つて生きていた人種だと思ふ。それが

後の時代に渡来した異人種によつて滅ぼされて神にされたものだろう。

二 日本人が形成された時期は？

遺跡・埋蔵文化の発掘調査によつてあきらかにされつつある。縄文土器や石器の分布によつて考えると、日本民族が形成されたのは縄文時代、石器時代以前である。

三 天皇について

ニッポン民族を論ずる場合に重要な問題のひとつに「天皇家」の問題がある。天皇家の先祖はいつ頃ニッポン列島に渡来したのだろうか？。それを採る手がかりのひとつに「日本書紀」・「古事記」がある。これらの書物によつて書かれた神話によつて現実の生産様式を推察するならば、水稻農業が盛んに支配的になった時代である。つまり弥生時代に天皇家の先祖は日本列島に渡つて来た。

天皇家の先祖——この朝鮮半島から渡つて来た高度な文明を持った強力な武力団体はニッポン民族を次々と殺し滅ぼしたり、北へ南へ山奥へと追い散らしながら日本列島を征服していった。天皇家の先祖は日本列島に渡来した時は日本人として渡来したのではない。天皇家

の先祖は日本列島に渡来してから日本人になつたのである。日本人にならなければ日本列島を征服することができなかつた事情があつたからだと私は考へる。

四 アイヌ人について

かつて、アイヌ人は日本列島の全地に分布してゐた。日本人にかなりの影響を与へたことは間違いないとして、直接的に日本人の先祖というわけにもいかなうようだ。日本列島の先住民族の可能性の方が強い。

アイヌ人に関して、しばしば「アイヌ人は日本人に滅ぼされた」という言い方がされる。実際に滅ぼされて絶滅したわけでもあるまい。又、日本列島の中に少数民族がアイヌとか居なかつたようなくちぶりで語るものがあるが、それは間違つてゐると思ふ。アイヌによつて絶滅させられた日本人の少数民族もいたかも知れないのに、それらの事には全く口をつぐんで一方的にアイヌを被害者として語るものが多い。

民族問題について語るときは、全人とは一方は悪のかたまりであり、一方は善のかたまりとして語らるゝ。戦争の論理と同じであ

る。二のような論理には創造性は無い。

吾民族は無視できない

私の周囲には「反日本」「反日本民族」を稱へる者が多数いる。彼らは「反日本帝国主义」ではなくて、「日本を滅ぼせ」「日本民族を滅ぼせ」といふ。その理由をたずねても理解できる返答は得られない。マルクス主義関係の文献用語が「ヤラヤラ」とはらまかゆるだけだ。話の相手にならぬ連中とも思へん。要するに彼らは「民族を離れたいだけだ」と思ふ。しかく私たちが好むと好まないに聞かす、この地球上の各地域には民族国家は存続する。善悪は別として、現在はそれになければ世界は成り立たない側面がある。人類は「自分」政治・経済の地域単位として民族国家を使うだろう。社会革命も当分は各民族国家を単位におこなはねばならぬ。又、「日本の民族文化について語る者は保守的であり右翼である。かく日本以外の民族文化について語る者は進歩的であり左翼である」といふ論理をふりまわす者も多い。彼らこそ日本から離れたいだけのことだ。マルクス主義的「コスモポリタン」には用はない。創造や変革を手がける者は「民族は文化上重要な手がかりである。」（今宮晴徳）

